

268	<p>勤務していた中学校に化学物質過敏症で苦しむShooちゃんがありました。化学物質過敏症は一般の人が何ともない微量の物質に過敏に反応し、頭痛や呼吸困難、脱力感などさまざまな症状が現れる病気です。化学物質過敏症の症状は1人1人違います。Shooちゃんは、幼少よりあらゆる種類の化学物質に苦しみ、食べること、日常生活を営むこともが困難になることが多々あります。そのため、学校へ通うことやみんなど共に運動を楽しむことができませんでした。</p> <p>そんなShooちゃんに元気を届けたいといつも思っていました。逆に元気をもらうのは私でした。特にShooちゃんの描く絵や作品(タブレットを用いたデジタル画や化学物質が含まれない紙や絵具)は見事で全体のバランスだけでなく、細部に丁寧に描いていることに驚きと感動があります。丁寧な作品に込められているのは彼の言葉であり、彼のコミュニケーションそのものであるように思えてなりません。これからも彼の創る作品が、化学物質過敏症に対する社会の正しい理解と、そして彼と家族の節点となることを願っています。</p>	269	<p>頭は茶髪のリーゼント、服は短ラン、赤のT シャツ、ベルトは細く白色、赤い靴下に先の尖った革靴、カバンはもちろんペッタンこ、眉毛はなく、頭の先から足先まで校則違反のオンパレード、ほぼ毎日遅刻でも学校へは来る中学生。毎日何かが起こっていました!!</p> <p>そして彼が卒業旅行した春休み、私を訪ねて「先生、アルバイトでお金貯めてん」とウイスキーの瓶を差し出してくれたこと。目頭が熱くなりました?結婚披露宴でも、彼が40歳になった時の「人生を半分生きたお祝い会」も来賓として招待されました。もちろん、正直に中学時代の「こんなに悪い、手のかかった生徒はいなかった」と皆様に聞いてもらいました?今、社会人として活躍している彼に拍手を送ります?</p>
270	<p>濃厚接触者になってしまい、約2週間リモートでしか授業を受けられない児童がいました。その児童はリモートでも明るく振る舞い、授業でも発言をし、ノートも丁寧に書いていました。「休み時間は自由に話していいよ。」と伝えていたので、すごくいきいきと話していました。しかし、家庭連絡を入れると、やはり寂しさが増すばかりだと言います。その児童がようやく待機期間を終えて登校した時には、今までよりさらに明るく、楽しそうに学校生活を送るようになりました。そんな時にボソッと、「人に会えるのってめっちゃうれしいことなんやなあ。当たり前やと思ってたなあ。」と言いました。当たり前だったことを特別だと気づくことが出来たのは素敵だなと感じつつ、当たり前をどんどん奪っていく、新型コロナウイルスに苛立ちを覚えました。身近に危険が潜んでいる中での学校生活になりますが、子どもたちの当たり前を奪わないようにがんばっていかうと今までより強く感じる事ができました。</p>	271	<p>魚が好きで漁師するから、勉強できんていいというAさん。好きな子おんねやろ、いっしょに生活するなら、こんなこともできなあかん、これも知ってなあかん、コンコンと言いつつ聞かせたことを思い出します。</p> <p>コミュニケーションに困難を抱えている子どもが、卒業式に舞台上から、私の名前を呼んで感謝の気持ちを伝えてくれたこと。 文字の獲得に困難を抱えていた子どもが文字を獲得し、手紙をくれたこと。</p>
273	<p>何事にも一生懸命に取り組み、がんばる今担任している子たち</p>	274	<p>皆で、大根を育て、冬至の日に大きな鍋で大根を炊いて、食べました。</p> <p>言葉が出ない子、上手に話せない子などいますが、それぞれに個性があり、輝いていると感じています。どんな日もありますが、笑い声をあげながら走り回っている様子を見るのが大好きです。</p> <p>昆虫や動物について、本当に詳しく、いろいろなことを教えてくれる子どもがいました。</p>
277	<p>成績優秀校ではなく、勉強は出来なくても、家庭を支えるために必死に汗水滴しながら頑張る本当の意味での生き抜く力を持っていた生徒たち全員です。</p>		